

貸 借 対 照 表

令和5年3月31日現在

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流 動 資 産	5,425,156	流 動 負 債	2,944,845
現 金 及 び 預 金	3,458,013	1年以内返済予定の長期借入金	1,393,000
未 収 運 賃	534,424	未 払 金	829,641
未 収 金	112,929	未 払 費 用	31,719
貯 蔵 品	450,960	未 払 消 費 税 等	69,395
前 払 費 用	36,965	未 払 法 人 税 等	2,754
立 替 金	830,300	預 り 連 絡 運 賃	14,372
そ の 他 流 動 資 産	1,815	預 り 金	219,872
貸 倒 引 当 金	△252	前 受 運 賃	271,257
		前 受 収 益	35,141
		賞 与 引 当 金	77,691
固 定 資 産	28,328,487	固 定 負 債	23,935,421
鉄軌道事業固定資産	26,652,000	長 期 借 入 金	22,654,100
兼 業 固 定 資 産	1,109,131	退 職 給 付 引 当 金	1,135,746
建 設 仮 勘 定	71,030	長 期 預 り 金	145,574
投資その他の資産	496,326	負 債 合 計	26,880,266
投資有価証券	160,800		
長 期 貸 付 金	645	(純資産の部)	
長 期 前 払 費 用	234,894	株 主 資 本	6,873,377
その他の投資等	102,017	資 本 金	100,000
貸 倒 引 当 金	△2,030	資 本 剰 余 金	3,973,566
		その他資本剰余金	3,973,566
		利 益 剰 余 金	2,799,810
		その他利益剰余金	2,799,810
		繰越利益剰余金	2,799,810
		純 資 産 合 計	6,873,377
資 産 合 計	33,753,644	負 債 ・ 純 資 産 合 計	33,753,644

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

損 益 計 算 書

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

(単位：千円)

科 目	金 額	
鉄 軌 道 事 業		
営 業 収 益	6,248,270	
営 業 費	5,535,524	
営 業 利 益		712,745
兼 業		
営 業 収 益	233,574	
営 業 費	138,513	
営 業 利 益		95,061
全 事 業 営 業 利 益		807,807
営 業 外 収 益		
受 取 利 息	144	
受 取 配 当 金	160	
そ の 他 の 収 益	19,825	20,130
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	57,409	
長 期 前 払 費 用 償 却	40,768	
そ の 他 の 費 用	24,498	122,676
経 常 利 益		705,261
税 引 前 当 期 純 利 益		705,261
法人税、住民税及び事業税	2,754	2,754
当 期 純 利 益		702,507

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

株主資本等変動計算書

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

(単位：千円)

	株 主 資 本				純資産 合 計
	資 本 金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本 合 計	
		その他資本剰余金	その他利益剰余金		
			繰越利益剰余金		
当期首残高	100,000	3,973,566	2,097,302	6,170,869	6,170,869
事業年度中の変動額					
当期純利益			702,507	702,507	702,507
事業年度中の変動額合計			702,507	702,507	702,507
当期末残高	100,000	3,973,566	2,799,810	6,873,377	6,873,377

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

個 別 注 記 表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの …………… 時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

市場価格のない株式等 …………… 移動平均法による原価法

2. 棚卸資産の評価基準及び評価方法

評価基準は原価法（収益性の低下による簿価切り下げの方法）によっております。

貯 蔵 品 …………… 月別総平均法

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定額法によっております。ただし、鉄軌道事業取替資産については取替法によっております。

(2) 無形固定資産

定額法によっております。なお、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

4. 引当金の計上基準

貸 倒 引 当 金 債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率による計算額を、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し回収不能見込額を計上しております。

賞 与 引 当 金 従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、将来の支給見込額のうち当期の負担額を計上しております。

退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務の見込額に基づき、当期末において発生していると認められる額を計上しております。
なお、退職給付債務の金額の算出は簡便法によっており、期末自己都合要支給額から特定退職者共済制度及び確定拠出年金制度より支給される部分を控除した金額を計上しております。

5. 収益及び費用の計上基準

鉄軌道事業は、主に新交通システムによる鉄道の輸送サービスを提供する事業であり、定期外収入や定期収入が生じております。定期外収入は、切符やICカード乗車券の利用等による運輸収入であり、原則、輸送サービスを提供した時点で履行義務が充足されると判断し、当該時点において収益を認識しております。定期収入については、定期券の有効期間にわたって履行義務が充足されると判断し、有効期間に応じて収益を認識しております。

兼業は、主に保有する施設等を賃貸する不動産賃貸事業であり、賃料収入等が生じております。賃料収入は、「リース取引に関する会計基準（企業会計基準第13号 2007年3月30日）」に従い、賃貸契約期間にわたって収益を認識しております。

6. 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

(会計上の見積りに関する注記)

固定資産の減損

(1) 当期の計算書類に計上した金額

鉄軌道事業に区分される固定資産（貸借対照表計上額26,652,000千円）

なお、減損損失の計上はしていません。

(2) 計算書類利用者の理解に資するその他の情報

事業用資産においては管理会計上の区分を基準に資産グルーピングを行い、減損の兆候が認められる場合に減損テストを実施しております。減損テストにおいて、割引前将来キャッシュフローの総額がこれらの帳簿価額を下回った場合には、減損損失を計上します。

(3) 翌期の計算書類に与える影響

鉄軌道事業は、行動制限の緩和により回復傾向にはあるものの、テレワークの活用等働き方の変化等により、当社を取り巻く環境は厳しい状況が続くものと考えており、移動需要の減少が今後一定期間にわたり継続するとの仮定を置いております。これらの見積りにおいて用いた仮定は現時点の最善の見積りであるものの、将来の不確実な経済状況及び経営状況の変化が割引前将来キャッシュフローの見積りに重要な影響を及ぼした結果、減損損失を計上する可能性があります。

(貸借対照表に関する注記)

1. 担保に供している資産及び担保権によって担保されている債務

担保に供している資産

土 地	3,183,511 千円
建 物	1,140,174 千円
構 築 物	7,098,497 千円
車 両	8,822,866 千円
機 械 装 置	2,919,041 千円
工具器具備品	27,060 千円
計	23,191,152 千円

上記の資産は、長期借入金（1年以内返済予定の長期借入金を含む）82,400千円の担保に供しております。

2. 有形固定資産の減価償却累計額 38,878,837 千円

3. 事業用固定資産

有形固定資産	27,752,015 千円
土 地	3,818,828 千円
建 物	2,101,430 千円
構 築 物	9,850,784 千円
車 両	8,822,866 千円
機 械 装 置	3,131,044 千円
工具器具備品	27,060 千円
無形固定資産	9,116 千円

4. 固定資産の取得原価から直接減額された工事負担金等累計額 1,102,905 千円

5. 顧客との契約から生じた債権及び契約負債の残高

(1) 未収運賃及び未収金のうち、顧客との契約から生じた債権の残高

未収運賃	534,424千円
未収金	106,792千円

(2) 前受運賃及び前受収益のうち、契約負債の残高

前受運賃	271,257千円
前受収益	15,157千円

(損益計算書に関する注記)

1. 営業収益	6,481,845 千円
2. 営業費	5,674,038 千円
運送営業費及び売上原価	3,215,558 千円
販売費及び一般管理費	328,536 千円
諸 税	230,446 千円
減 価 償 却 費	1,899,497 千円
3. 顧客との契約から生じる収益の金額	
鉄軌道事業及び兼業の営業収益のうち、顧客との契約から生じる収益の金額	
鉄軌道事業 営業収益	6,194,452 千円
兼業 営業収益	57,602 千円

(株主資本等変動計算書に関する注記)

発行済株式の種類及び株式数

普通株式	4,853,200 株
------	-------------

(税効果会計に関する注記)

繰延税金資産の発生は、退職給付引当金の否認等であります。なお、評価性引当金を全額計上しております。

(金融商品に関する注記)

1. 金融商品の状況に関する事項

資金運用については資金運用管理規程に沿って行っております。また資金調達については、神戸市及び市中銀行からの借入による方針であり、借入金の使途は主に設備投資であります。債権に係る顧客の信用リスクは、社内規程に沿ってリスク低減を図っております。投資有価証券は主として業務上の関係を有する株式であります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

令和5年3月31日(当期の決算日)における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については次のとおりです。なお、現金は注記を省略しており、預金、未収運賃、立替金及び未払金は短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しております。

(単位：千円)

	貸借対照表 計上額	時 価	差 額
長期借入金（＊）	24,047,100	24,025,638	21,462

（＊）流動負債 1年以内返済予定の長期借入金として計上されている1年以内返済予定の借入金を含んでおります。

（注）時価の算定に用いた評価技法及びインプットの説明

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：同一の資産又は負債の活発な市場における（無調整の）相場価格により算定した時価

レベル2の時価：レベル1のインプット以外の直接又は間接的に観察可能なインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：重要な観察できないインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットをそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に、想定される利率で割り引いて算定する方法によっており、レベル2の時価に分類しております。

（賃貸等不動産に関する注記）

重要性がないため注記を省略しております。

（関連当事者との取引に関する注記）

法人主要株主等

(単位：千円)

属 性	名 称	議決権等の所有 (被所有)割合	関連当事者 との 関係	取 引 の 内 容	取 引 金 額	科 目	期 末 残 高
主要株主	神戸市	被所有 77.36%	資金の借入 (注2)	資金の借入実行	1,720,000	1年以内返済予定の長期借入金	1,361,800
				資金の借入返済	1,286,400	長期借入金	22,602,900
				借入金の支払利息等	54,345	未払費用	4,621
			資金の立替 (注3)	インフラ工事費の立替	829,593	立替金	830,031

取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注) 1. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。
2. 価格その他の取引条件は、神戸市の条例、規則及び予算等に基づいて決定しております。
3. 短期的な立替であり金利は発生していません。

(1株当たり情報に関する注記)

1株当たり純資産額 (円未満切り捨て)	1,416 円
1株当たり当期純利益 (円未満切り捨て)	144 円

(重要な後発事象に関する注記)

該当事項はありません。